『建設中。』

井内 永知子
建築設備技術者協会中部支部
設備女子会運営委員
藤原工業経営企画室室長

勝田尚哉著

現場が好きだ。建設現場で働く人が好きだ。左胸に社名が入った作業服を着ている人が好きだ。真ん中に会社のロゴマークが入ったヘルメットを頭にかぶっている人が好きだ。

建造物をつくり上げるという目的を成し遂げるためだけに集まり、その場にいる全員が職務を果たす。そこには通常業務も単純作業も無い。一品受注生産、二度と同じものはつくらない。建設業は究極のモノづくりに携わるプロ集団で成り立つ。各分野の職人は自分の仕事にプライドを持って仕事をする。

現場は今日も動く

「職人」ということばは熟練した技能を持つ者にのみ許される敬称だ。単なる労働者ではない。

それぞれが持っている知恵や技術を出し合い、情熱がぶつかり合い、エネルギーが満ち溢れる。建設現場では、ビッグバンが起こっている。神社や仏閣に負けないパワースポットだ。

日々少しずつ変化するかたちに心躍る日も心曇る日もある。そうやって、建設現場で働く者は、皆、渡り鳥となっていく。現場から現場へと仕事のある場所へと移動する。

『仕事の一番すきなのはくるしむ事がすきなのだ　苦しいことは仕事にまかせ　さあさ吾等はたのしみましょう』と河井寛次郎の「仕事のうた」を唇に建設中、の現場は今日も動く。